

2011年日本平和大会実行委員会ニュースno. 4

2011年日本平和大会実行委員会 東京都港区芝1-4-9 日本平和委員会気付
TEL 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277 E-mail: info@j-peace.org 10月05日

福島 沖縄に連帯し

「平和のうちに生きる権利」を深めよう

福島県では9月28日、実行委員会が結成されました。

会議では、石堂県平和委員会事務局長が、「3.11の東日本大震災、そして原発事故。放射能により『平和のうちに生きる権利』を奪われている福島の人々と、米軍基地によって『平和のうちに生きる権利』を奪われている沖縄の人々という現実があります。沖縄の人々が基地問題を沖縄の問題だけにせず、全国、世界の中の問題としてとらえようとしてきたように、福島原発問題も福島だけの出来事ととらえることのないように、いま沖縄のたたかひの歴史に学び連帯することは、福島のこれからの平和・民主運動にとって大変重要なことではないでしょうか。原発ゼロ、放射線被害ゼロ、全面賠償のたたかひにもきっと生きてくると思います。原発もアメリカいいなりの政治とも深くかかわっていますし。“原発も原子力空母もいらない”とがんばっている神奈川のみなさんからもおおいに学びましょう」と、福島の現状から沖縄大会の意義について問題提起しました。

討論では、原発がアメリカの世界戦略と深くかかわっていること、普天間基地の辺野古への移設の圧力が野田政権で強くなっている、全会員に学習パンフを届けたい（平和委）などが話し合われました。参加目標は10人。10.30原発ゼロ集会や11月20日投票の県議選など、大変な日程のなかでも、目標をやりきろうと話し合いました

横浜市従 青年部が30人目標

横浜市従業員労働組合（横浜市従）青年部は、今年の日本平和大会へ30人の代表を送ることを決めました。すでに10代、20代の24人が名乗りを上げています。多くが、平和大会へ初めて参加する青年です。

青年部は毎年の原水爆禁止世界大会や3.1ビキニデー集会へ代表を送っています。参加した青年はその後役員になったり、企画を運営するまでに成長。今年は日本平和大会を特別に位置付けました。

青年部常任委員で平和担当の和田さんは「呼びかけたらすぐに参加希望が寄せられた」と言います。「ここ数年、青年部の活動が活発になり、さらにこれを大きくしたいとの思いもありました。沖縄の基地がどんなものかを知るとともに、横須賀の問題とも関連させ、日本全体の課題として意識を持ちたい」と期待します。参加予定の青年で、「ピースミーティング」をしています。大会の意義を学ぶとともに、大会中の詳しい日程を話し合っ決めて決める予定。全員参加型を進めることを重視しています。

青年部常任委員の高井さんは、「自治体労働は戦争協力業務を含む。これに協力しないためにも組合が必要なのですが、その意味でも自治体労働者が平和の問題を学ぶのは大切なことです」と言います。沖縄で安保の実態を学び、安保と社会保障や暮らしがいかに関わるか大いに学びたいと意気込みます。青嶋さんは平和大会初参加です。今年の原水爆禁止世界大会に参加し、青年の平和運動の“勢い”を実感しました。「でも行っただけで満足してはいけないとも感じました。私は戦争や政治、歴史についてよく知りません。もっと知りたいと思っているところへ、平和大会への参加を呼びかけられました。事前学習もした上で、現地の人のお話を聞き、自分の考えを深めたい」と話しています。

事務局連絡 ③

次回実行委員会 10月12日（水）17時～日本平和委員会事務所